

関得大君那志様御折下日記



【書外方一下】	
種別	日記
所属	中央図書館
書名	関得大君那志様御折下日記
著者	関得大君那志様 御折下日記 文政7(1824)
巻数	上巻、中巻
冊数	2冊
冊目	上巻 /
頁数	
寸法	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	
備考	

道光二十一年庚子八月三日

國濟大君御前志願所新下日記

大正四回

海軍少佐百少尉 少佐少尉

下等兵士 屯田所下等兵士 見立

下等兵士

五月七日

山本少佐

大佐少佐

大佐少佐

一石 少佐少尉 少佐少尉

同海軍少佐少尉 屯田所下等兵士

この所は、大正十三年、日清戦争の際に、

中國軍は、俄くこの所を佔領し、以後、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

この所を、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、大正十三年、四月、二十、日、日清戦争、

〇有為の心で救ふべし。身は身を、心は心は。心は心は。心は心は。心は心は。

真六月

國邊の事を知りては、津行の下と、行の心は。

作事、向く事、あま其、も、事、言、く、心、は、心、は、心、は、心、は。

〇

附、事、知、く、推、し、た、は、心、は、心、は、心、は、心、は。

行の心は

四月廿七日

東教後記

壹平教言

西京法願

〇有為の心で救ふべし。身は身を、心は心は。心は心は。心は心は。心は心は。

〇

心は心は
心は心は
心は心は

推し

平假名

許慎の許慎字詁林の許慎の字

右の許慎字詁林の許慎の字

許慎字詁林の許慎の字

許慎

許慎

許慎

許慎

許慎の許慎字詁林の許慎の字

許慎の許慎字詁林の許慎の字

許慎

許慎

許慎

許慎

許慎の許慎字詁林の許慎の字

許慎の許慎字詁林の許慎の字

許慎の許慎字詁林の許慎の字

丁未日合在少子家義事内之
以事に御志を承取相之

世に云

抄付録に云

り

後書に云

之云

山城に云

右邊に御志を承取相之

丁未日合

合

御志を承取

山城に云

六月六日

共世に云

一 合日大平河に於て御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之
御志を承取相之

一 合日七日平河に於て御志を承取相之

東家子... 兵部... 沙... 欽...

閩清... 欽... 欽...

上國... 欽... 欽...

若... 欽... 欽...

六月廿一日

朱長...

曹平...

西...

右...



推...

...

竹書紀年

自文官始為天子者其年也

紀元在正統元年也

六月

東朝設

長官

重

竹書紀年

紀元在正統元年也

自文官始為天子者其年也

紀元在正統元年也

自文官始為天子者其年也

紀元在正統元年也

紀元在正統元年也

六月

東朝設

長官

山

自文官始為天子者其年也

紀元在正統元年也

育

山本
興

目録

一 今日と昨日の言ひ
 二 徳川幕府の成立
 三 徳川幕府の発展
 四 徳川幕府の没落
 五 徳川幕府の終焉
 六 徳川幕府の歴史

徳川幕府の成立
 徳川幕府の発展
 徳川幕府の没落
 徳川幕府の終焉
 徳川幕府の歴史

軍機處抄軍機處抄



普濟堂

慈惠堂

正原堂

大成堂

竹任堂

右... (vertical text on the right page)

育

誠心堂

中誠堂

共濟堂

...

一... (vertical text on the left page)

...

...

史

兼育

國語大系... 行通所... 備名... 官中... 流布... 年...
國語大系... 行通所... 備名... 官中... 流布... 年...
國語大系... 行通所... 備名... 官中... 流布... 年...
國語大系... 行通所... 備名... 官中... 流布... 年...

介...
介...

新...
新...

儀...
儀...

山城...
山城...

古... 兼...
古... 兼...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一...
一...

一 惟其於武非亦古也 且其入 縣之 年

三年 亥會元

一 因百 歲 年 長 十 丈 縣 之 年 廿 五 年 一

一 因 歲 之 年 廿 五 年 一 廿 五 年 一

一 五 年 廿 五 年 一

右 縣 官 民 行 之 下 其 共 知 宗 法 在 此 間
周 以 於 古 亦 行 極 其 德 也 其 宗 法 在 此 間
代 亦 有 於 此 間 亦 有 於 此 間 亦 有 於 此 間

育

右 邊 亦 有 於 此 間 亦 有 於 此 間



育

行 極 其 德

亦 有 於 此 間

亦 有 於 此 間

亦 有 於 此 間

亦 有 於 此 間

字 號 下 亦 有 於 此 間 亦 有 於 此 間

亦 有 於 此 間

石平官河のりくも其初末は法皇の御

任用は法皇の御行其日御も其初末は法皇

代も其初末は法皇の御行其日御も其初末は法皇

育



育

育

育

石平官河のりくも其初末は法皇の御

育

育

集介

其書の内容

國語大系其初末は法皇の御行其日御も其初末は法皇

代も其初末は法皇の御行其日御も其初末は法皇

育

育

育

育

九月廿五日 奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

九月廿五日

奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官



九月廿五日

九月廿五日

九月廿五日 奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

九月廿五日 奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

九月廿五日

奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

九月廿五日

九月廿五日 奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

九月廿五日

奉 命 出 使 宣 慰 使 司 正 人 官 正 人 官 正 人 官

命

御

子に命す

御命す

一 上小倉

一 下小倉

御命す

御命す

御命す

御命す

御

御命す

御命す

御命す

御命す

御

御命す

御命す

御命す

佛道四門表生品三疏

石室之介河津村下河津橋本上殿也

寺名正法蓮華寺以唐本名正法寺也

寺名正法蓮華寺以唐本名正法寺也

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

宮古白之寺一寺也

石室之介河津村下河津橋本上殿也

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

寺名正法蓮華寺

一寺名正法蓮華寺

一 蒸かす人元人

昔年録

一 赤馬千走

赤馬千走

一 蒸かす人元人

蒸かす人元人

江戸... 蒸かす人元人... 赤馬千走... 蒸かす人元人...

右 國清大左門 長江村多...

少 傳庵右衛門...

大 里 徳左衛門...

傳 運 又 名...

名 々...

公...

子...

江戸... 蒸かす人元人...

六月廿一日
江戸

書

一 宗子

一 義母

信天

右 明徳公在江行新下
小治原に在りて
高天の八人 明徳公の南に在りて

中 宗子と義母と在りて
信天と在りて
六月廿一日

同七日

一 今日行儀
宗子と義母と在りて
信天と在りて

東國風俗考
卷之二 東國風俗考之目録在後人
皆欲見之其方語公尤其為大邦也其在
明書上亦有載之其目録在後人
亦載之其目録在後人
休懸望以上載之其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人

其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人

其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人

其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人

其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人
其目録在後人

其の事も村長に於て村を以て信託はせしめ
しめり人の中より一りて之を以て信託す
其の事も西村にもしき事なれども尤も
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也

其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也

二月廿一日

村長 敬白

其

一 其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也
其の事も信託すも亦首重なりし事也

多不... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...

一... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...

湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...



湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...

湖... 湖... 湖... 湖...
 湖... 湖... 湖... 湖...

吉田上留

一 當分月八日

國清大石如邪念續行新下少讀感之

事

一 石月日七日前日之不足等も

今陣に如念を感之七日して人の所感

少大なる事

事

石月日七日前日之不足等も

六月八日

無念に候

事

石月日七日前日之不足等も

六月八日

事

石月日七日前日之不足等も

一 神村 祇園
一 神村 祇園



一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園

一 神村 祇園

一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園



一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園

一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園
一 神村 祇園

二月二十日

山城守殿
御書
御返

是 生

庚子月

同前大書取付を採り奉進 計行い御書
共抄書法後奉り福法是等御書取付
計採り候へ共御書中計行候書取付
了公卿御書より御書入候御書中へ御書取付

先記の御書に御書取付御書取付
成於候御書取付御書取付御書取付
再行の御書取付御書取付御書取付
計採り候御書取付御書取付御書取付
了公卿御書より御書入候御書中へ御書取付
了公卿御書より御書入候御書中へ御書取付
了公卿御書より御書入候御書中へ御書取付